

みや わか

市議会だより



新春号

正副議長挨拶、議長の行事…………… 2
各常任委員会挨拶及び視察報告… 3~4



前列 左より

神谷喜久雄 (総務委員長)
中島 健三 (教育民生委員長)
谷口 重隆 (副議長・教育民生委員)
遠藤 嘉昭 (議長)
川口 誠 (産業建設委員長)
藤嶋 嘉子 (総務委員)
柴田裕美子 (総務副委員長)

中段 左より

寶部 勝 (産業建設委員)
山元 秀一 (総務委員)
弓削田 敬 (総務委員)
安永 友則 (産業建設委員)
島本 昌典 (教育民生委員)
花井 秀俊 (議会事務局 局長)
川崎 広美 (議会事務局 議会係長)

後段 左より

茅野 勝 (総務委員・議会運営委員長)
安河 英幸 (教育民生委員)
染矢 正次 (産業建設副委員長)
清水健太郎 (教育民生副委員長)
和田 善久 (産業建設委員・議会運営副委員長)
安部 勇佑 (議会事務局 議会係)
三島 一仁 (議会事務局 議会係)

議長・副議長 新春あいさつ

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、令和2年の新年を健やかに、そして穏やかに
お迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より、本市議会及び市政に対する格段のご理解とご協力を賜り、この場を
お借りして厚くお礼申し上げます。

昨年は、「平成」から「令和」になるという歴史的な年となりました。新時代に活動して
いく議員として、市民の皆さまの負託に応えられますよう市議会議員一同、より一層気を
引き締めて、その職責を果たしていく所存でございます。

一方で、西日本を中心とした豪雨災害、関東・東北での台風被害、世界的に見ればタイ
で観測史上一番の暑さを記録し、また、アメリカのイリノイ州では季節外れの大寒波が到
来するなど、地球温暖化を大きな要因とする異常気象が発生してきております。環境省の
報道発表によると、2100年には想定を超える温暖化となる、との見解が出ております。未
来を担う子ども達のためにも、より一層の備えが肝要であると共に環境保全への取組の重
要性も感じております。

さて、本年は昨年建設しておりました新庁舎も完成し、残すところネットワーク工事、防
災関係工事及び備品搬入となり、5月からは新庁舎にて業務開始となります。

また、昨年は長年の懸念事項でありました、辻ヶ峯・前隈線の地権者協議も整い、工事
の準備を進めているところです。今年中には通学路も完成することとなり、児童・生
徒の通学時の安全性の向上が期待されます。さらに本年は、旧庁舎の解体や宮若東中学校
校区の小学校再編など大きな事業が予定されており、議会としても注視し、地域活性化や
公共の福祉向上のため、議決機関としての役割を果たして参ります。このほかにも様々
な事業や課題がございますが、それぞれに対して真摯に向き合い、一つ一つ誠意をもって取
組み、市民の皆さまの代表として、執行機関と互いに研鑽し合い、より暮らしやすいまち
づくりに努めて参ります。

最後になりますが、市民の皆さまにとりまして、本年が幸多き年となりますよう心から
ご祈念申し上げますとともに、今後も、更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し
上げます。

■ 議長行事(令和元年) ※主なもの

5月 21日	福岡県北部市議会議長・副議長会(豊前市)
5月 24日	福岡県市議会議長会(久留米市)
5月 30日	九州市議会議長会定期総会(福岡市)
6月 11日	全国市議会議長会定期総会(東京)
7月 1日	全国市議会議長会基地協議会理事会(東京)
7月 11日	北九州都市圏域市町議会議長懇談会(北九州市)
7月 19日	直鞍議会議長連絡協議会(直方市)
10月 10日	福岡県北部市議会議長・副議長会(北九州市)
10月 16日	福岡県市議会議長会(直方市)
10月 28日	全国市議会議長会基地協議会九州・沖縄部会定期総会(別府市)
10月 31日	全国市議会議長会研究フォーラム(高知市)
11月 18日	全国市議会議長会基地協議会理事会(東京)

二〇一九年

視察報告

総務委員会

総務委員会が11月11日から13日までの3日間、岩手県で行いました行政視察につきまして、ご報告申し上げます。

遠野市では、東日本大震災時に官民一体で取り組んだ後方支援活動について調査研究を行いました。人口約2万7千人。岩手県の内陸と沿岸の中間地点に位置し、古くから交通と交流の要としての役割を担っていました。震災

前の平成19年、当時の市長は、今後発生することが予想されていた地震に、速やかに対応できるよう災害後方支援の拠点にと、遠野運動公園内の競技場や広場などを災害時の臨時ヘリポートや駐車場、野営場として利用できる準備を行っていました。既存の施設に新たな役割を持たせ、その周りに消防庁舎、給水装置や備蓄倉庫などをも整備。と同時に一方では自衛隊との大規模な事前訓練を行うなど、防災・減災を意識した取組みを続けていました。東日本大震災では遠野市も震度5強の揺れを観測、本庁舎も全壊しましたが、これまでの計画や訓練が活かされ、地震

発生から14分後の午後3時には、自衛隊・消防・警察など救援部隊受入れの準備ができたそうです。市総合防災センター敷地内の「遠野市後方支援資料館」には当時の貴重な資料が展示されており、菊池消防長をはじめ、市の担当者より詳しい説明を頂くことができました。

紫波郡紫波町では、紫波中央駅前都市整備事業「オガールプロジェクト」について調査研究を行いました。紫波町は、盛岡市と花巻市の中間に位置する人口約3万3千人の自然豊かな町です。平成10年に新駅「紫波中央駅」が開業するも、資金減等の理由で駅前開発計画は約10年間凍結していたが、平成19年、前町長と、東洋大学院との協定により「公民連携によるまちづくり」がスタート。平成21年からプロジェクトが本格始動し、現在では、10・7畝の土地に、図書館や病院、産直「紫波マルシェ」、飲食店、ビジネスホテルやスポーツ施設、紫波町役場、民設民営保育園、敷地内の熱供給を行うエネルギーステーションを集約して建設。また地元の工務店が地元の木で建てる

エコハウス分譲住宅地なども建ち並んでいます。このプロジェクトにより、駅の乗降客数は増加、地価は上昇、地元の雇用者数や、各施設の利用者数も年々増加しているとのことです。

今回の行政視察では、「備え」の重要性、また、先を見据えた積極的な施策がまちづくりに肝要であると強く感じました。今後の宮若市のまちづくりにどう反映していけるか、引き続き研究、協議を行う必要があると考えています。



オガールプロジェクト視察

教育民生委員会

教育民生委員会は、11月12日から14日にかけて、東京都大田区と荒川区の行政視察を行いました。

まず、大田区におきましては、さまざまな障がいのある人を総合的に支援する障がい者支援センター「さぼーとぴあ」を視察しました。この施設は障がいをもった人の生活をトータルでサポートすることを目的とし、相談支援・自立支援・地域交流・就労移行訓練など充実した機能が備わっています。明るい館内はユニバーサルデザインとなっており、誘導灯・音声標識ガイドシステム・磁気ループなどがあり、障がい者にとって、使いやすいようさまざまな工夫がされていました。さらに就労移行支援事業では、パソコンの練習や清掃、喫茶業務などの「業務プログラム」、職場でのマナーや運動、調理などの「講座プログラム」、面接動向や体験実習などの「実践プログラム」の3つがあり、さらに就職後も安心して働けるようにセンター職員が会社訪問などを行い、職場や生活面の悩みを話す場が設けてあり、すでに就職されている人たちにもさまざまな支援が行われていました。今後も障がい者への支援の在り方について更なる調査研究を進めてまいります。

次に、全国に先駆けてタブレットを全小・中学校に導入し、一人一台体制で授業等において活用している荒川区の教育の状況を調査研究いたしました。

この導入により、個人学習やグループでの話し合いにも活用され、結果発表や議論を深めることに大いに役立っているとのことでした。実験や実技教科においては、一例として、児童・生徒の泳ぎを水中で動画撮影し、それを教員と一緒に視覚的に確認できることから、教員は指導しやすく、児童・生徒は理解しやすいというメリットがあり、技術向上を図るために活用されています。また、学校図書館にタブレットを持ち込み、図書資料とインターネットを使って調べるなどアナログとデジタルそれぞれのメリットを活かして学んでいました。

昨今、ICT教育においては、自分の力で考える習慣の不足や、記述力の低下、ディスプレイを長時間使用する



荒川区 ICT 教育視察

ことの身体への影響等が懸念されています。この問題について真摯な取り組みが今後の課題と思います。今後も更なる情報コミュニケーション技術の発展が予想される中、今後、本市の学校教育についても、ICT教育の推進は、重要な位置づけであると考え、更なる研究、協議を行ってまいりたいと考えております。

産業建設委員会

産業建設常任委員会では閉会中の11月12日から14日に委員会視察を行いました。この中で、本市が、事業を今後展開する上で活用が見込まれる、「農産漁村振興交付金（農福連携事業ハード対策・ソフト対策）」の申請を行う際、その手続きが円滑に行われるよう、農林水産大臣政務官 参議院議員河野義博氏及び農林水産省事業担当職員同席のもと、要望活動を行いました。農林水産大臣からは「各担当者への協力要請をはじめ、本市が計画する事業を把握した上で、九州農政局へも情報を共有し、連携する。」と大変前向きな回答を頂きました。また、今後農福連携事業を推進するに当たり、茨城県つくば市にある「こきげんファーム」の視

察を行いました。NPO法人が運営している農場で、障がいを持った方が100名以上働き、地域の耕作放棄地を活用し、年間100品種以上の野菜生産・販売をされており、農福連携事業の先駆けとして注目を集めている農場です。

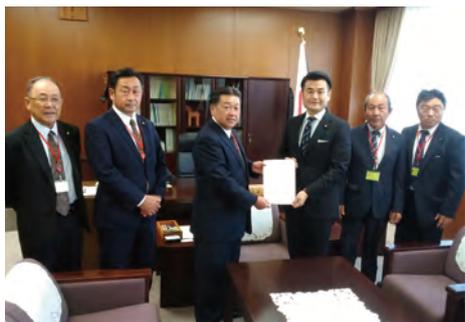
代表からは、成功談のみならず失敗事例等多くの貴重な事例を聞くことができました。活動は季節ごとに応じた、野菜セットの販売が中心となっており、400世帯ほどと契約をしているとの事でした。他で販売されている野菜セットと違い、生産者自らが箱詰めから配達までを行うことで、中身の変わりや配達日程の変更ができる等、生産者と消費者がお互いに顔を見ながら同じ立場で行っている事が多くの継続した契約に繋がっているのではないかと考えられていたようでした。

これらの事例から、対象の中心を地域に置くことで、収穫祭等のイベントにも多くの来場者があり、そのことが更に地域全体が障がいを持った方に優しい地域づくりにも貢献しているように感じました。この法人が経営する農場、農作物仕分け、箱詰め等を行う施設やレストランを視察させて頂き、どんな障がいのある方も、地域の中で役

割を持ち、お互い助け合い成長しあえる社会を作りあげることにより、その中で、働いている方が全員笑顔で働いていた事が非常に印象深く、残っております。

今回の視察では、行政にない考え方や施策を知ることができ、農福連携を進めていく上で非常に大切な事を学ぶことができました。今後は、更なる研究、協議を行っていきたいと考えています。

この他、昨年行った本委員会の活動として、市道勝野・長井鶴線につきまとして、閉会中に進捗の報告及び今後の市の方針を確認し、産業建設委員会としても道路整備の促進に対して、担当部署と連携して後押しできる部分で協力することを確認いたしております。



農林水産大臣政務官陳情訪問